



マキシムゴロキー号。たくさんの外国人観光客を乗せて鳥羽港に入港しました。

3月12日、バハマ船籍の客船マキシムゴロキー号（2万4,220トン）が鳥羽港に入港しました。
たまたま街中を歩いていたらわたしは、「今日は、外国人観光客の姿が多いなあ」と感じています。その様子には、昔ミキモト真珠島へ多くの外

国人観光客が訪れていたところを彷彿とさせられました。昼食のために入ったレストランにも2組の外国人観光客が入っており、そのうちの4人連れに話し掛けました。彼らは、オランダやドイツなどヨーロッパからのお客さんで、9千ドルの費用で6か月をかけて世界一周旅行をしている途中であるとのことでした。

現在のレートで90万円余りということ、ずいぶんお値打ちな船旅であり、また服装も普段着とまったく変わらない気軽な格好でした。日本の印象を聞いてみたところ、街はきれいで、日本人はフレンドリーだという返事が返ってきて、「鳥羽も環境パトロールで、ごみのないまち

づくりをされていてよかったですな」と思いました。彼らから「みやげ物や衣類などの買い物はどこでできるのか」と逆に尋ねられ、その時なかなか説明しにくいことを知りました。街中をぶらぶらと散策する外国人観光客のために、英語や中国語、韓国語などの多言語表記の案内板が必要だと感じました。

小泉前首相の観光立国宣言で、平成22年には日本訪問の外国人観光客を1千万人にするという計画は、当時夢のような話だと思っていました。ところが、平成20年には915万人の予想ということで、その夢が実現しそうな情勢になってきました。鳥羽市においても、前述の案内板の整備などにも必要ですし、宿泊施設においても外国人を意識した部屋づくりやもてなしを考慮しなければなりません。時期が到来していると思

木田市長の



ど〜んと

真珠のように輝くまちづくりのために

コミュニケーション

vol.32

外国人観光客

とここで、わたしたちが住んでいる地球は、とてつもない長い年月を経て、生物がいのちを維持できる環境に整えてくれました。このことに大きな役割を果たしたのが緑色の植物です。緑色植物のからだの中には、水と二酸化炭素を原料に

私たちが住むこの地域は、冬でも比較的温暖なので、落葉せずに一年中緑の葉をつけている植物があります。常緑樹です。自然災害や人工伐採がなければ、数百年で「こもりとした常緑広葉樹林」として安定し、その葉は太陽の光を反射して緑色に輝いています。このような樹林を、「照葉樹林」と呼んでいます。「魚つき林」として、漁獲確保にも貴重な照葉樹林は、太陽と地球がわたしたちに残してくれた宝物、大切にしたいものです。

答志島本島西端に、島ヶ崎という海上交通の要衝があります。地元のかたに案内していただき、整備された遊歩道を島ヶ崎灯台まで歩きました。尾根道は、うっそうと繁る常緑樹林の中に取り残っています。

して、太陽の光と葉緑体のはたらきで、ブドウ糖やデンプンという製品を合成しているのです。この営みを『光合成』というのはご存じのとおりです。光合成では、製品の有機物とともに酸素がつけられ、体外に出ていきます。現代科学の粋を集めても、いまだ人工で光合成することはかなわず、人も含めすべての生物は、そのいのちを維持するために、緑色植物がつくり出した有機物を何らかのかたちで食物として取り込んでいるのです。

照葉樹林

人権文化の花を咲かせよう

Vol.71